

ハテノウタ 新聞

2017年2月16日創刊 週刊 毎週木曜日発行
http://www.c-mono.com/hatenouta/

創刊
特集号
2頁建

2017年2月16日〔木曜日〕

発行所 有限会社キューカンバー
京都市東山区蒔田町 549-3 藤ビル 2F
〒605-0942
TEL075-525-2195
発行人 MONO 新聞部
【無料】

MONO

浦鳴りんこ・特別対談

「会話劇」のMONOが、「歌」に挑戦!! MONO・新作公演『ハテノウタ』

2017年3月3日より、大阪・北九州・四日市・東京にて上演するMONOの新作公演『ハテノウタ』。MONO初出演となる浦鳴りんことMONO代表の土田英生が対談を行いました。

MONO初出演となる浦鳴りんこは、DREAMS COME TRUEのバックヴオーカリストを務め、「JUNK THE PEANUTS」で人気を博す一方、様々なミュージカルで演技力を高く評価されている。土田英生は、MONOの劇作・演出、テレビドラマ『斉藤さん』の脚本、映画『約三十の嘘』の脚本などを手掛ける。

「音楽」と「演劇」、異なるジャンルで活動を続けてきた二人が、出演の経緯から音楽と演劇の違いまで語り合いました。

▼「ハテノウタ」は？
土田 同窓会のお話です。といっても普通の同窓会ではなく、少し変わった。その効果が如実に出て、20代の顔をしながら100歳を迎えてしまう人がいたりする。さらには人口抑制のために、100歳を超えると安楽死しない



土田英生と浦鳴りんこ（京都芸術センター：西山榮一（PROPELLER.））

この同窓会がカラオケボックスのような場所で行われているということですね。MONOの芝居は、「会話劇」と言われることが多いんですけど、今回は会話の中に歌を混ぜてみたいなと思って、偽音楽劇です。でも、劇団員は全員歌がうまくない。どうしよう……と思ったときに、浦嶋さんの顔が浮かびました。

▼浦嶋りんことの出会い
土田 浦嶋さんとは僕が演出をさせていただいたプロデュース公演『トリツカレ男』（2009年）で出会いました。僕にと

劇団から
私は学生の頃に初めてMONOと出会いました。それまであまりお芝居を観たことがなくて、「なにやら大げさで観ているこっぴどい感じが恥ずかしい」という印象を持っていました。偶然MONOに出会いまして、「お、このお芝居は恥ずかしくない」と思ったのが興味を持った理由です。

初MONO特典!!

初観劇の方にグッズ割引券プレゼント

『ハテノウタ』で44回目の公演となるMONO。今公演では新しい観客との出会いを目的に「初MONO特典」を行います。「初MONO特典」とは、MONOを初観劇の人に「500円分のグッズ割引券」をプレゼントする試みです。

自分の理解の一手手前まで耳に入ってくる次のせりふ、ちらっと自分の暗部を見せられた気分になるキャラクター……。華美な要素が少ないお芝居ですが、細かく丁寧に張られた仕掛けもMONOを観劇するの楽しみのひとつかと思えます。皆さんもぜひ、自分なりの「MONOの面白いところ」を探してみてください。

垣脇純子

浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初は出演させて
 浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて

浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて



浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて

浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて

浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて

浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて
 浦嶋 最初に出演させて